

ISSN 2759-8640

レオンチェフ・ライブラリー レポート

No.2

レオンチェフ文庫資料における
著者別資料数の分析

2026年 3月

法政大学

日本統計研究所

ISSN 2759-8640

レオンチェフ・ライブラリー レポート

No.2

レオンチェフ文庫資料における
著者別資料数の分析

2026年 3月

法政大学

日本統計研究所

レオンチェフ文庫資料における著者別資料数の分析¹

小俣惇（明治大学大学院）

1. はじめに

産業連関分析の創始者であるワシリー・レオンチェフの著書や論文は、参考文献の記載が比較的少なく、その発想の源泉をたどることが容易ではないという特徴を有している。例えば、レオンチェフの代表的著作である『アメリカ経済の構造』（1941年）に示されているデータ関連以外の参考文献は数点にとどまる。この点はレオンチェフに固有のものではなく、例えば水田(2000)によれば、アダム・スミスの『国富論』にはかれの同時代人の多くがそうであったように、引証文献が少ないとされている。

このように参考文献の記載が乏しい場合、思想史や科学史では手紙や個人蔵書などを用いて、その思想や理論の源泉さらには知的背景を明らかにする研究が行われてきた。例えば自然科学の分野では、チャールズ・ダーウィンについて、Darwin Correspondence Project²において手紙を元に彼を取り巻く知的環境が分析され、Murdock et al (2017)が読書ノート（Reading Notebooks）を基に彼の読書行動を分析している。最近では John van Wyhe が 2024 年に彼の個人蔵書の新しいカタログを公開した³。また経済学の分野においても、アダム・スミスについて Mizuta (2000)が彼の個人蔵書のカタログを完成させた。水田 (2000)ではアダム・スミスの個人蔵書を用いてフランスやイタリアの文化がどのようにイギリスに影響を与えたかの研究が紹介されており、また野原(2016)はそのうち東京大学経済学部が蔵書するアダム・スミス文庫からわかるスミス像を提示している。

水田(2000)は思想家の蔵書がそれぞれの思想家の思想の源泉を知るための資料であることを指摘しゾンバルトなどの蔵書を研究する意義を強調している。

レオンチェフについても同様に、彼の著書・論文における参考文献リストを可能な限り再構成することによって、その発想の形成過程を明らかにできる可能性がある。日本統計研究所には、レオンチェフの蔵書を収蔵した「レオンチェフ文庫」が所蔵されている。レオンチェフが実際に所蔵していたこれらの蔵書は、彼の著書・論文における参考文献リストの有力な候補となり得る。そこで本稿では、レオンチェフ文庫に収蔵された蔵書について著者別・編集者別の特徴を分析し、レオンチェフがキャリアを通じて構築

¹ 法政大学菅幹雄教授（日本統計研究所所長）には本稿におけるレオンチェフ文庫のデータの利用の許諾をいただき、加えて大変有益なコメントをいただいた。記してここに感謝を申し上げる。なお本稿に残る誤りについてその責任はすべて筆者にある。

² Darwin Correspondence Project, “Home,” <https://www.darwinproject.ac.uk/>（アクセス日：2026年2月5日）。

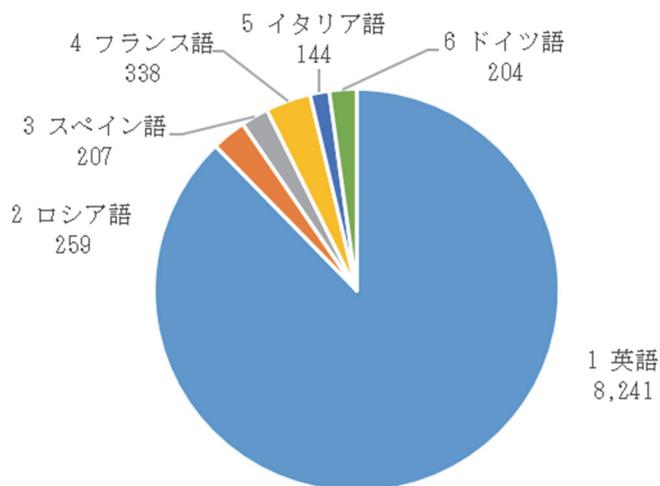
³ “The Complete Library of Charles Darwin,” Darwin Online, https://darwin-online.org.uk/EditorialIntroductions/vanWyhe_The_Complete_Library_of_Charles_Darwin.html（アクセス日：2026年2月5日）。

してきた学術的・人的ネットワークの実態を明らかにすることを試みた。

なお、レオンチェフの略歴を以下に示す。レオンチェフは1905年に生まれ、ロシアの大学を卒業後、ドイツへ渡った。フンボルト大学で博士号を取得したのち、1931年までキール世界経済研究所に所属した。その後、1931年夏頃にアメリカ合衆国へ移住し、当初は全米経済研究所に所属した。1932年からはハーバード大学に移り、同大学で長く研究・教育活動を行った。晩年にはニューヨーク大学において研究活動を続け、1999年に没した。

2. 言語別および出版年別の資料数

本文庫における言語別および出版年別資料数は図1および図2のとおりである⁴⁵。図1では、資料総数が約9,400冊であり、英語の資料が最も多く、次いでフランス語が多くなっている。図2では資料の大半が、レオンチェフが米国に渡った1930年代から彼が亡くなった1999年までのもので、1970年代が最多で、次いで1960年代、1950年代の順となっている。本文庫には彼の後半生の資料を中心に所蔵している。

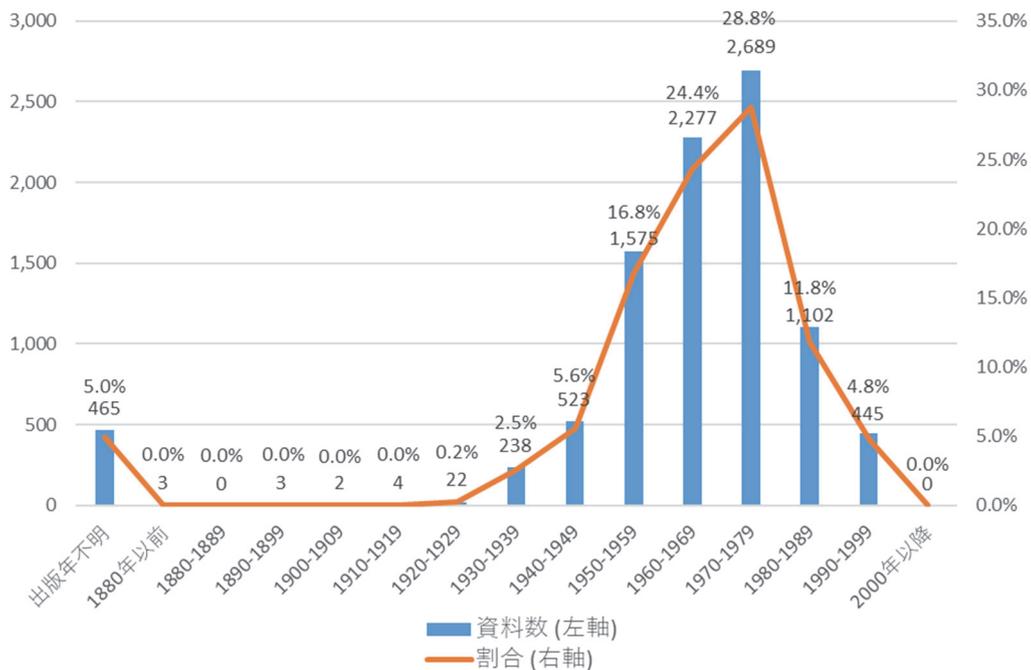


(出典) 筆者作成

図1. 言語別資料数

⁴ 図1および図2は整理作業の進展にともない Suga & Omata (2025) において示された同図を更新したものである。

⁵ 本研究で利用した所蔵リストは現在も精査中であり、本研究では現時点における中間結果を示している(以下同様)。



(出典) 筆者作成

図2. 出版年別資料数

3. 著者・編集者別資料

著者・編集者別資料のうち表1は個人に関するものであり(同一人物で5点以上所蔵している資料を掲載している)、表2は組織・機関が出版した資料に関してである(同一組織・機関に関し5点以上所蔵している資料を掲載している)⁶⁷。

表1に関して、John Kenneth Galbraith (1908–2006)は、オンタリオ農業大学(現・ゲルフ大学)を卒業後、カリフォルニア大学バークレー校で農業経済学の博士号を取得し、戦後はハーバード大学を中心に研究活動を行った。社会科学への貢献としては、従来の新古典派的な市場経済に対する代替的な理論を提示した。『アメリカ資本主義』(1952年)、『豊かな社会』(1958年)、『新しい産業国家』(1967年)などの著作において、「拮抗力 (countervailing power)」「通念 (conventional wisdom)」「技術構造 (technostructure)」「資本主義と共産主義の制度的収束 (institutional convergence)」といった概念を通じて、リベラル政策の理論的基盤を築いた(Neill, 2013)。またケネディ大統領など民主党の政策顧問として活躍した(Parker, 2003)。本文庫には、1952年の『アメリカ資本主義』から1996年の *The Good Society: The Humane Agenda* まで存在する。

Harold Hotelling (1895–1973)はアメリカ出身で、経済学、計量経済学、数理統計学、生物統計学など多分野にわたり数学の応用を通じて業績を残した(Lissner, 1974)。経済

⁶ 英語以外の資料については筆者が英語に翻訳している(以下同様)。

⁷ 所蔵リストの作成上、同一のタイトルでも別のレコードとして記録している場合がある。そのため同一のタイトルが複数回カウントされている可能性がある点注意されたい(以下同様)。

学では、立地理論や「ホテルリングの補題」によって、ミクロ経済理論の基盤を築いた (Samuelson, 1960; Arrow, 2016)。レオンチェフはキール時代に需要・供給曲線の推定を行い、1930年代初頭には設立間もないエコノメトリカに加わっており、ミクロ経済学への関心が高かった (Bjerkholt, 2016)。こうした背景から、Hotelling との間で交流があったと考えられる。本文庫には、1925年の統計分析に関する論文から1930～1950年代初頭にかけての Hotelling の著作が存在する。

Jacob Marschak (1898-1977) はキエフに生まれ1919年にベルリンへ亡命し、ハイデルベルク大学で1922年に博士号を取得した。1926年にはキール研究所に移り、1930年にはハイデルベルク大学に講師に就任した。1931年の需要の弾力性に関する論文を発表している。その後ナチス政権時代にドイツを離れイギリス、続いてアメリカへ移住する。1943年から1948年までカウルズ委員会の所長を務め、戦後のネオ・ワルラス派経済学と計量経済学の発展において中心的な役割を果たし、その後、情報理論、チーム理論、分散型組織の経済学において主要な業績を残した⁸。レオンチェフとの関係では、彼も1920年代後半からキール世界経済研究所で需要曲線の推定を行っており、早い時期から交流があったと考えられる。本文庫には、1931年の論文“Elasticity of demand”から1955年の論文“Elements for a Theory of Teams”といった Marschak の主要著作が存在する。

Alan Sussman Manne (1925-2015) はニューヨークに生まれ、ハーバード大学で学士号を取得後、第二次世界大戦中に従軍し、戦後、ハーバード大学で博士号を取得した。初期の貢献としてはオペレーションズ・リサーチの研究がある。1970年代にはそれを応用し開発途上国における政策課題を定量的に分析した。後年には環境問題に取り組み、弟子の Richels とともに MERGE (Model for Evaluating the Regional and Global Effects of greenhouse gas reductions) モデルを開発し、温室効果ガス削減に向けた国際的取り組みの経済的影響を定量的に分析し、京都議定書の採択に貢献した⁹。レオンチェフとは研究分野が近いことから Manne がハーバード大学在籍時から関係があったと推察される。本文庫には、1953年の論文から1973年の開発経済学のサーベイ論文までが存在する。

Gerhard Tintner (1907-1983) はドイツに生まれ、数理経済学および計量経済学に貢献をした。1937年にアイオワ州立大学に着任し、1930年代後半から1940年代初頭にかけて、独占的競争、効用最大化、需要の弾力性、選択理論などの経済理論の動学化に関する研究を行った (Aitken, 2006)。Hotelling 同様、ミクロ経済理論や実証分析に関し研究の関心が類似していたことから、レオンチェフと交流があったと推察される。本文庫には1930年代後半から1950年代初頭を中心に Tintner の著作が所蔵されている。

⁸ Jacob Marschak の経歴等は History of Economic Thought Website による。

<https://www.hetwebsite.net/het/profiles/marschak.htm> (アクセス日: 2025年10月30日)。

⁹ Alan Sussman Manne に関する情報は INFORMS のウェブサイトによる。<https://www.informs.org/> (アクセス日: 2025年10月30日)。

Seymour E. Harris (1897–1974) はニューヨーク出身で、1926年に博士号を取得し、翌年よりハーバード大学で講師を務め、1936年に准教授に昇進し、1963年まで同大学で教鞭を執った。第二次世界大戦中、戦時経済の拡張によって失業問題が克服されたことを示す一方で、財政赤字と貨幣供給の拡大に起因するインフレーションへ警鐘を鳴らした。ケネディ政権下では財務省経済諮問委員会の委員長を務め、ジョンソン政権でも主要な経済顧問として活躍した (Ashbury, 2006)。1932年にレオンチェフがハーバード着任以降、Shumpeter のセミナーに Harris とレオンチェフが共に参加したことや (Bjerkholt, 2016)、その後も同僚であったことから交流があったと考えられる。

Paul A. Samuelson (1915–2009) はアメリカに生まれ、シカゴ大学で学士を取得後ハーバード大学で博士号を取得した。彼は数学を用いて経済学研究を形式化し、その業績は、現代厚生経済学、線形計画法、ケインズ経済学、経済動学、国際貿易理論など広範に及び、現代経済学のほぼすべての分野に影響を与えた¹⁰。その功績から1970年にノーベル経済学賞を受賞した。レオンチェフとの関係では、彼はハーバード大学でレオンチェフの数理経済学のセミナーに参加していた。Samuelson 自身もこのセミナーが「人生の進路を決定づけた講義は他にない」(筆者訳)と回顧しており、この時期の経験が後の代表作 *Foundations of Economic Analysis* (1947年) に結び付いたとしている (Samuelson, 2004)。

Richard Stone (1913-1991) はイギリスに生まれ、ケンブリッジ大学を卒業後、1940年頃からイギリス政府の統計関係の部署に勤務した。1945年からはケンブリッジ大学の応用経済学科の初代学科長に就任した。企業会計における勘定体系の枠組みを経済統計に応用し、第二次世界大戦後、SNA (System of National Accounts、国民経済計算) の基本的枠組みを築き国際基準の制定に貢献した¹¹。その功績により1984年ノーベル経済学賞を受賞した。レオンチェフ文庫には *The Role of Measurement in Economics* (1951) や *National Income and Expenditure* (1972, Feodora Stone との共著) といった主著が所蔵されている。

Jan Tinbergen (1903-1994) はオランダに生まれ、ライデン大学を卒業した。1930年代に最初のマクロ経済モデルを開発し、計量経済学の発展に大きな貢献をした。計量経済学の発展により、数学と統計を経済学と結びつけて経済理論を検証することが可能となり、経済学がより高度な科学的段階へと発展した¹²。その功績により彼は1969年、Ragnar Frisch とともにノーベル経済学賞を受賞した。レオチェフ文庫には1939年の彼の代表的著作 *Statistical Testing of Business-Cycle Theories: Part II: Business Cycles in the United*

¹⁰ Paul A. Samuelson の経歴等は NobelPrize.org による。 <https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/1970/samuelson/biographical/> (アクセス日: 2025年11月27日)。

¹¹ Richard Stone の経歴等は NobelPrize.org による。 <https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/1984/stone/biographical/> (アクセス日: 2025年11月27日)。

¹² Jan Tinbergen の経歴等は NobelPrize.org による。 <https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/1969/tinbergen/facts/> (アクセス日: 2025年11月27日)。

States of America, 1919–1932 から 1987 年までの著作があり、長い間交流があったことが伺われる。

本文庫にはこのほか Simon Kuznets、J.R. Hicks、Ragnar Frisch、Lawrence R. Klein といったノーベル経済学賞受賞者の著作も多数存在する。

表 2 は組織・機関別の資料数を示している。アメリカ政府機関が最も多く、約 2,400 点存在し、全体の約 25% を占めている。1936 年の産業連関表に関する論文をはじめとして、レオンチェフが晩年まで経済学者は現実の経済状況を把握するべきであると繰り返し主張したことを踏まえると、膨大な統計・実証資料を収集して経済の理解を深めようとした姿勢を伺うことができる。

表 1. 著者・編者別資料数 (個人別、5 点以上所蔵している資料)

著者/編者	資料数	著者/編者	資料数
Harold Hotelling	41	Eliahu Romanoff	10
Gerhard Tintner	37	Fritz Machlup	10
Jacob Marschak	26	Joseph A. Schumpeter	10
John K. Galbraith	24	Abram Bergson	9
Alan S. Manne	18	Anne P. Carter	9
Seymour E. Harris	18	Irving Hoch	9
Paul A. Samuelson	17	Karen R. Polenske	9
David L. Sills	16	Oscar Lange	9
Richard Stone	16	Simon Kuznets	9
Jan Tinbergen	14	William Fellner	9
John H. Williams	13	Frank A. Hanna	8
Elizabeth W. Gilboy	12	Henry Schultz	8
George B. Dantzig	12		
Gerhard Gehrig	12		
John Bossons	11		

(つづく)

表 1. 著者・編者別資料数（個人別、5点以上所蔵している資料）（つづき）

著者/編者	資料数	著者/編者	資料数
John R. Hicks	8	Walther G. Hoffmann	6
Jaroslav Vanek	8	A.D. Roy	5
Otto Eckstein	8	Andrew Brody	5
Ewan Clague	7	C.E.V. Leser	5
Herman Wold	7	Charlotte E. Taskier	5
James W. Gillula	7	Edward S. Mason	5
Joseph A. Pechman	7	Franklyn D. Holzman	5
Nicholas Kaldor	7	Gottfried Haberler	5
Perry D. Teitelbaum	7	H.S. Houthakker	5
R.L. Rajatskasa	7	Jacques Attali	5
Ragnar Frisch	7	Joel Dean	5
Richard M. Bird	7	Kenneth J. Arrow	5
S.J. Prais	7	Kimio Uno	5
Shigeto Tsuru	7	M.K. Horne, Jr.	5
Adolf Kozlik	6	Michel Kalecki	5
Adolph Lowe	6	Maurice Allais	5
David I. Fand	6	Richard Bellman	5
Edward Nevin	6	Robert Triffin	5
Frederick T. Moore	6	Sidney Weintraub	5
Hilda Geiringer	6	T. Barna	5
Irving Fisher	6	Trygve Haavelmo	5
Jacob Schmookler	6	Walter Isard	5
K. Puttaswamaiah	6	Werner Z. Hirsch	5
Lawrence R. Klein	6		
Milton Friedman	6		
Morgan D. Thomas	6		
North-Holland	6		

（注意）レオンチェフ自身の著作物は本表から除いている。

（出典）筆者作成

表 2. 著者・編者別資料数（組織・団体別、10 点以上所蔵している資料）

著者/編者	資料数
US Department of Commerce	2,148
US Department of Labor	181
ENEA	37
US Joint Economic Committee	33
Dominion Bureau of Statistics	32
National Science Foundation	32
USD Department of Economic and Social Affairs	30
American Academy of Arts and Sciences	38
USE Environmental Protection Agency	27
Federal Reserve Board	26
Jack Faucett Associates, Inc.	25
US Congress, Office of Technology Assessment	25
National Academy of Sciences	23
United Nations	23
The Population Council	21
Data Use and Access Laboratories	17
OECD: Organization for Economic Co-Operation and Development	16
United States Steel Corporation	16
United Nations, Research and Planning	15
Federal Investment Council	14
General Electric	14
Statistics Canada, Input-Output Division	14
American Iron and Steel Institute	13
Jack Faucett Associates	13
United Nations, Secretariat	13
National Academy of Lincei	12
The Nobel Foundation	12
Norwegian Institute of International Affairs	11
Office of Technology Assessment	11
Oklahoma Climatological Survey	11
Canadian-American Committee	10
USD Department of Health and Human Services	10
USD Department of Health, Education, and Welfare	10

（出典）筆者作成

4. 献呈資料について

本文庫において、著者のサインが記された謹呈資料は約 290 点であった¹³。表 3 は謹呈した著者・編集者の一覧である。表 4 は献呈点数の多い著者のうち謹呈のあった著作一覧である。図 3 は実際の写真である。

表 3 について、Henry Schultz (1893–1938) はポーランドで生まれ、大学院までニューヨークで学んだ。コロンビア大学では需要曲線の推計に関する先駆的な研究を行った Henry Moore の下で学び、1926 年からシカゴ大学にて教鞭を執った。1920 年代には実証的な需要曲線分析における第一人者となっており、1938 年にその集大成として *The Theory and Measurement of Demand* を出版した (Bjerkholt, 2016; Emmett, 2006; Hotelling, 1939)。レオンチェフはキール時代の 1929 年の論文で供給・需要曲線の推定を行っており、Schultz はこれを批判したが、Bjerkholt (2016) によれば、1931 年 12 月末ワシントン D.C. で開催された社会科学諸学会の合同会議にて両者は和解したとされている。本文庫には Schultz による 1930 年代の著作が多数存在し、レオンチェフが渡米後も両者の交流が継続していたことが伺える。

¹³ レオンチェフ文庫には謹呈されたと推定される資料が数多く存在するが、本稿では謹呈であることが明示的に確認できた資料のみを対象としている。

表 3. 著者・編者別献呈資料数

著者/編者	資料数	著者/編者	資料数
John K. Galbraith	12	A. Misiunas, L. Rayatskas	1
Harold Hotelling	6	A.A. Korbut, Y.Y. Finkelstein	1
Henry Schultz	6	A.G. Aganbegyan, K.A. Bagrinovsky, A.G. Granberg	1
Fritz Machlup	5	A.I. Demin	1
Jacques Attali	4	A.N. Efimov	1
Nicholas Georgescu-Roegen	4	A.P. Ghosh	1
William Fellner	4	A.V. Vasilyev	1
A.G. Granberg	3	Abram Bergson, Simon Kuznets	1
Claude Gruson	3	Al. A. Grigoriev, K. Ya. Kondratiev	1
Jacob Marschak	3	Albert O. Hirschman	1
Mabel F. Timlin	3	Alexander Bilimovic	1
Maurice Allais	3	Alexander Moroz	1
Nicholas Kaldor	3	Alfred Sauvy	1
Richard Stone	3	André Piatier	1
Anne P. Carter	2	Angelos Angelopoulos	1
Bernard Real	2	Antonio Pulido, Emilio Fontela	1
E.J. Gumbel	2	Arthur W. Marget	1
Franklyn D. Holzman	2	B.B. Kossow	1
Herman Wold	2	B.L. Lavrovsky	1
Jacques Rueff	2	B.N. Mikhalevsky	1
K.L. Kedia, A. Sinha	2	B.S. Razumikhin	1
K.Y. Kondratiev	2	Bernard Rosier	1
Kei Shibata	2	Bertil Ohlin	1
Michel Beaud	2	Bertrand De Jouvenel	1
Michel Kalecki	2	Charles D. Hyson, Fred H. Sand	1
N.P. Fedorenko	2	Christian Bidard	1
Paul A. Samuelson	2	Christian Gasser	1
Pierre Bauchet	2	Clark Warburton	1
R.M. Goodwin	2	Corrado Gini	1
S.M. Menshikov	2	Corwin D. Edwards	1
Ulrich Meyer	2	Daniel Ellsberg	1
V.V. Kossov	2	E.S. Wentzel, L.A. Ovcharov	1
Walther G. Hoffmann	2		
William Jaff	2		

(つづく)

表3. 著者・編者別献呈資料数（つづき）

著者/編者	資料数	著者/編者	資料数
Edward Theiss	1	Jacques De Bandt	1
Eric Schiff	1	Jacques Lesourne	1
Erich Schneider	1	Jacques R. Boudeville	1
Ernest Dale	1	James R. Prescott, Paur Van Moesel	1
Evgeny Mateev	1	Jan Tinbergen, Abram Bergson, Fritz Machlup, Oskar Morgenstern	1
Faye Duchin, Glenn-Marie Lange	1	Jean Marchal, Jacques Lecaillon	1
Felix Kaufmann	1	Jean Stoetzel	1
Fred H. Sanderson	1	Jinkichi Tsukui, Yasusuke Murakami	1
Frederick C. Dirks, Hans Staehl	1	John K. Galbraith, Stanislav Menshikov	1
Friedrich A. von Hayek	1	John R. Hicks	1
Fritz Baade	1	John Somerset Chipman	1
Fritz Both	1	Joseph Berkson	1
G.D. Komkov, B.V. Levshin, L.K. Semenov	1	Joseph S. Davis	1
G.E. Skorov	1	Kali S. Banerjee	1
G.P. Gladyshev	1	Karen Rosel Polenske	1
G.Sh. Rubinstein	1	Kiyoshi Aoki	1
Gary S. Becker, William J. Baun	1	L.M. Dudkin	1
Gilbert Blardone	1	Lev Yakovlevich Leifman	1
Griffith C. Evans	1	Ludwig von Mises, Rufus S. Tucker	1
Gustav Dieckheuer, Ulrich Meyer, Jochen Schumann	1	Luigi L. Pasinetti	1
H.S. Ellis, William Fellner	1	Lutz Hoffmann	1
Hans Brems	1	M.K. Plakunov, R.L. Rayatskas	1
Harold Hotelling, Lester R. Frankel	1	Manuel De Torres	1
Haskell P. Wald	1	Manuel Luis Cordomi	1
Helmut Reichardt	1	Manuel Ruiz Quintanilla	1
Henri Aujac, Jacqueline De Rouville	1	Maurice Laudrain	1
Henri Bartoli	1	Michel Aglietta, Anton Brender	1
Henry Schultz, John R. Hicks	1	Michel Albert	1
Hermann Schnabl	1	Michel Despax	1
Hilda Geiringer	1	Michiko Hatanaka	1
Isamu Yamada	1	Mo-huan Hsing	1
J. Scholka	1		

(つづく)

表3. 著者・編者別献呈資料数（つづき）

著者/編者	資料数	著者/編者	資料数
Montgomery D. Anderson	1	Roger Dehem	1
N.M. Krylov, N.N. Bogolubov	1	S.S. Gdalevich	1
N.Ya. Petrakov	1	Shigeto Tsuru	1
Nemchinova	1	Shinzaburo Koshimura	1
O. Anderson, Jr., R.K. Bower	1	Sidney Schoeffler	1
Oscar Lange	1	Simon Kuznets	1
Otto Mering	1	Slawtscho Sagoroff	1
P.H. Douglas	1	Stanislav Menshikov	1
P.L. Capica	1	Stephen A. Marglin	1
P.L. Kapica	1	Sven Dano	1
P.L. Kapista	1	T.V. Ryabushkin	1
Paolo Costa	1	Takuma Yasui	1
Paul Davidson	1	Tom Bishop	1
Paul Ladriere, Claude Gruson	1	V.S. Dayan	1
Paul Mandy	1	V.S. Vasilyev	1
Pedro Voltes Bou	1	Vera Cao-Pinna	1
Petar Shapkarev	1	Victor Zarnowitz	1
Peter Bishop Dixon	1	Werner Baer	1
Peter M. Gutmann	1	Wilhelm Brepohl	1
Petter Jakob Bjerve	1	Wilhelm Gülichk	1
Pierre Dockes	1	Wilhelm Krelle	1
Pierre Dockes, Bernard Rosier	1	William Fellner, Howard S. Ellis	1
R. Rajatskas, S.T. Zemaitaites	1	William James	1
R. Rayatskas, O. Balsys	1	Ya. N. Guzevaty	1
R.A. Rajetckas	1	Yu. P. Avdiyants, A.L. Meyendorf	1
R.G.D. Allen	1	Yu. V. Yaremenko	1
R.L. Rajatskas, M.K. Plakunov	1	Yves R. Maroni	1
R.L. Rajatskas, V.P. Sutkaitis	1	Montgomery D. Anderson	1
R.L. Rayatskas	1	N.M. Krylov, N.N. Bogolubov	1
Ragnar Frisch	1		
Raymond Courbis	1		

（出典）筆者作成

表4. 謹呈資料一覧（一部）

著者	タイトル	出版年	言語
John K. Galbraith	American Capitalism: The Concepts of Countervailing Power	1952	英語
John K. Galbraith	The Great Crash 1929	1955	英語
John K. Galbraith	The Affluent Society	1969	英語
John K. Galbraith	Economics and the Public Purpose	1973	英語
John K. Galbraith	A China Passage	1973	英語
John K. Galbraith	Money: Whence It Came, Where It Went	1975	英語
John K. Galbraith	The Age of Uncertainty: A History of Economic Ideas and Their Consequences	1977	英語
John K. Galbraith	The Anatomy of Power	1983	英語
John K. Galbraith	Economics in Perspective: A Critical History	1987	英語
John K. Galbraith	Capitalism, Communism and Coexistence: From a Bitter Past to a Better Prospect	1988	英語
John K. Galbraith	A Journey Through Economic Time	1994	英語
John K. Galbraith	The Good Society: The Humane Agenda	1996	英語
Harold Hotelling	Tubes and Spheres in n-Spaces, and a Class of Statistical Problems	1939	英語
Harold Hotelling	The Teaching of Statistics	1940	英語
Harold Hotelling	The Selection of Variates for Use in Prediction, with Some Comments on the General Problem of Nuisance Parameters	1940	英語
Harold Hotelling	Some New Methods in Matrix Calculation	1943	英語
Harold Hotelling	Some Improvements in Weighing and Other Experimental Techniques	1944	英語
Harold Hotelling	Book Review of “The Advanced Theory of Statistics” by Maurice G. Kendall	1945	英語
Henry Schultz	Frisch on the Measurement of Utility	1933	英語
Henry Schultz	A Comparison of Elasticities of Demand Obtained by Different Methods	1933	英語
Henry Schultz	Interrelations of Demand	1933	英語
Henry Schultz	Correct and Incorrect Methods of Determining the Effectiveness of the Tariff	1935	英語
Henry Schultz	Interrelations of Demand, Price, and Income	1935	英語
Henry Schultz	The Theory and Measurement of Demand	1938	英語

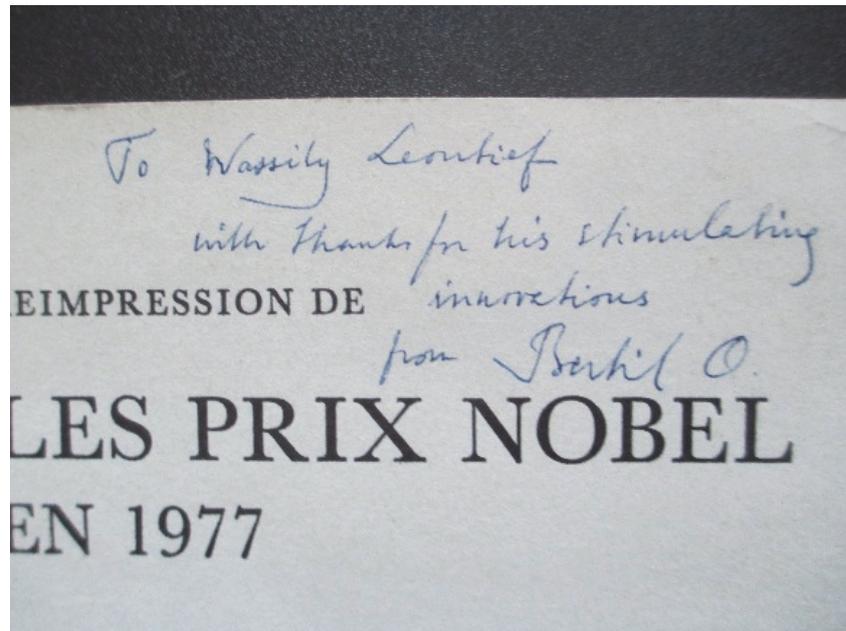
(つづく)

表4. 謹呈資料一覧（一部）（つづき）

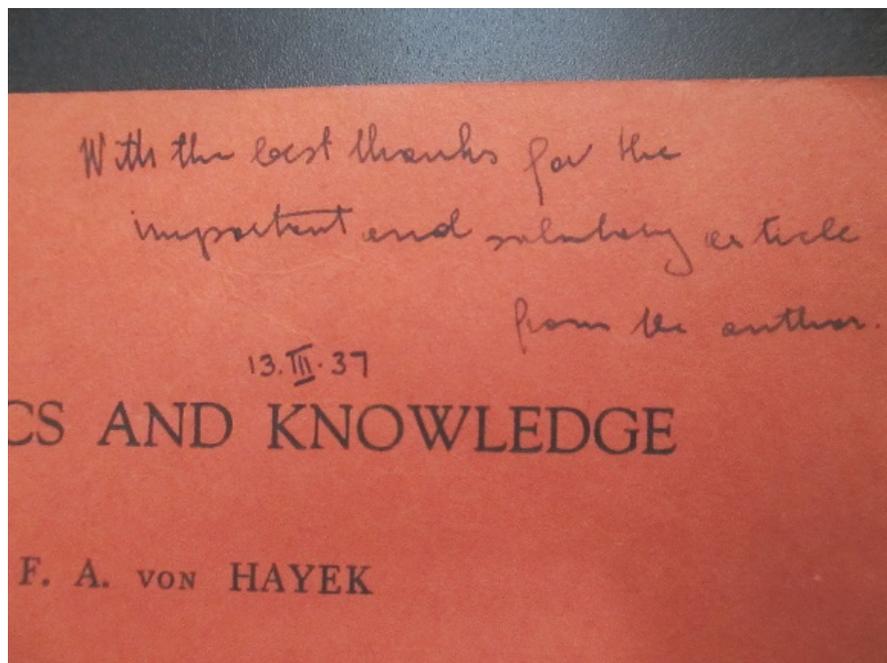
著者	タイトル	出版年	言語
Fritz Machlup	Monopoly and Competition: A Classification of Market Positions	1937	英語
Fritz Machlup	Marginal Analysis and Empirical Research	1946	英語
Fritz Machlup	Oligopolistic Indeterminacy	1952	英語
Fritz Machlup	Book Reviews	1955	英語
Fritz Machlup	Relative Prices and Aggregate Spending in the Analysis of Devaluation	1955	英語
Jacques Attali	A Man of Influence: The Extraordinary Career of S.G. Warburg	1987	英語
Jacques Attali	Literally and Figuratively: A History of Property	1988	フランス語
Jacques Attali	Stories of Time	1982	フランス語
Jacques Attali	The Word and the Tool	1975	フランス語
Nicholas Georgescu-Roegen	Note on a Proposition of Pareto	1935	英語
Nicholas Georgescu-Roegen	A Diagrammatic Analysis of Complementarity	1952	英語
Nicholas Georgescu-Roegen	Choice and Revealed Preference	1954	英語
Nicholas Georgescu-Roegen	An Emigrant from a Developing Country: Autobiographical Essay	1988	英語

（出典）筆者作成

図3. 謹呈資料の写真（一部）¹⁴

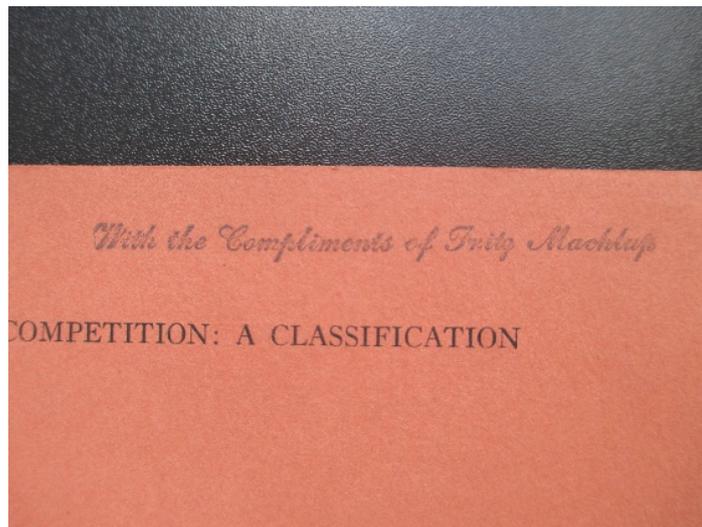


Bertil Ohlin, 1978,
The Nobel Prize in 1977

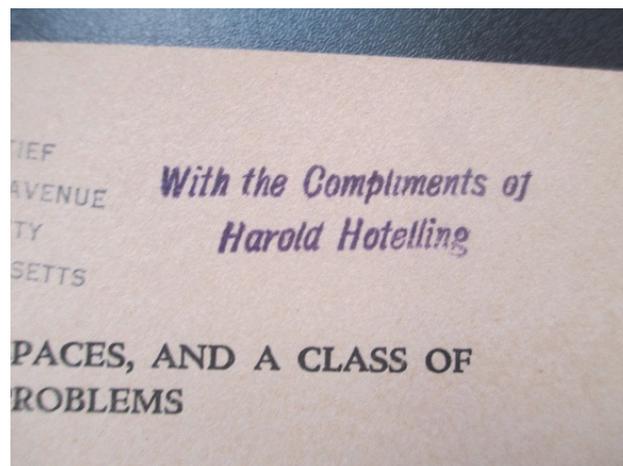


Friedrich A. von Hayek, 1937,
Economics and Knowledge

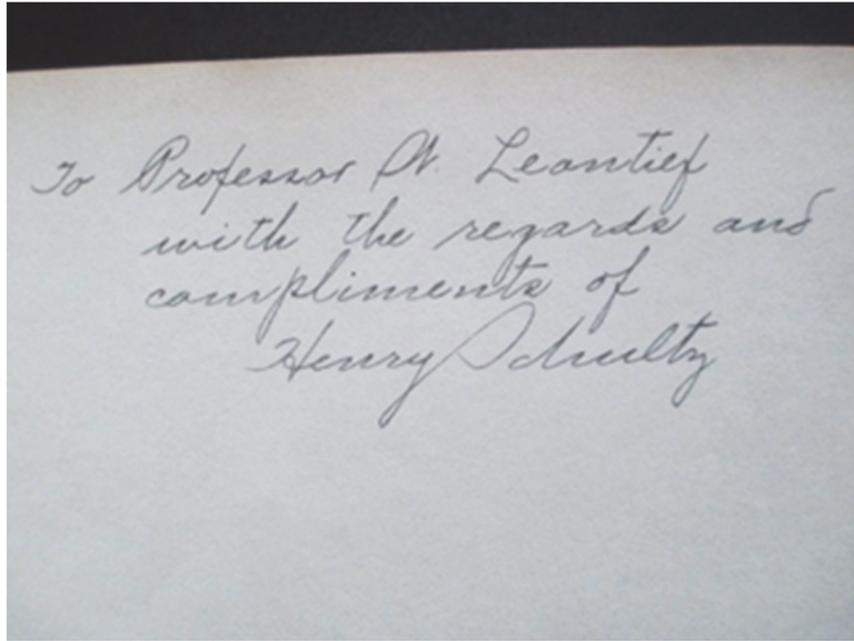
¹⁴ 図3の写真の資料はいずれも法政大学日本統計研究所レオンチェフ文庫が所蔵している。



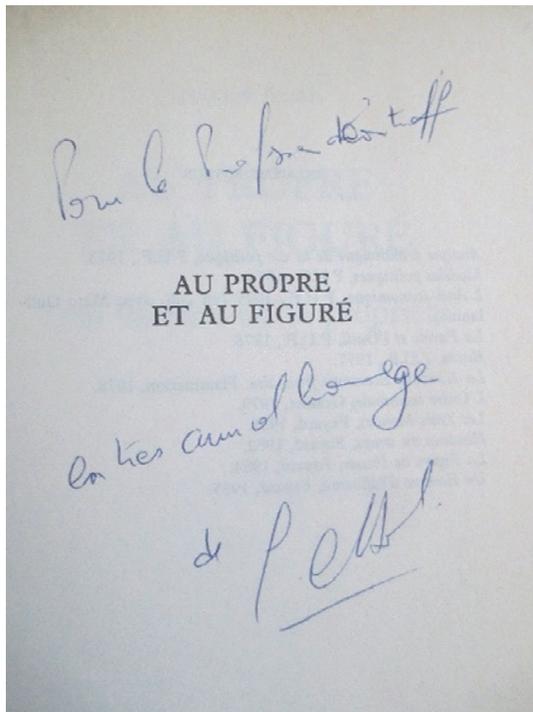
Fritz Machlup, 1937,
Monopoly and Competition: A Classification of Market Positions



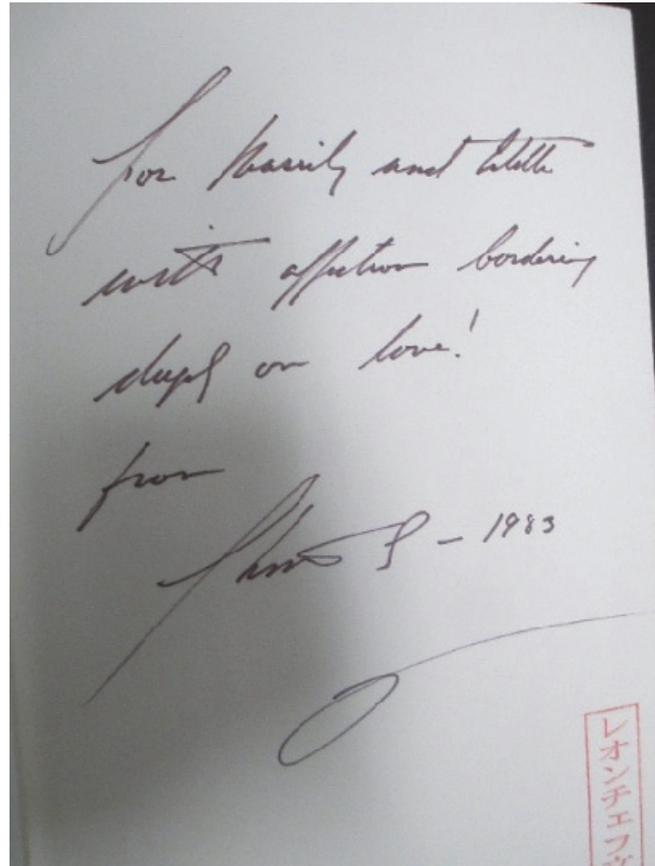
Harold Hotelling, 1939,
Tubes and Spheres in n -Spaces, and a Class of Statistical Problems



Henry Schultz, 1938,
The Theory and Measurement of Demand



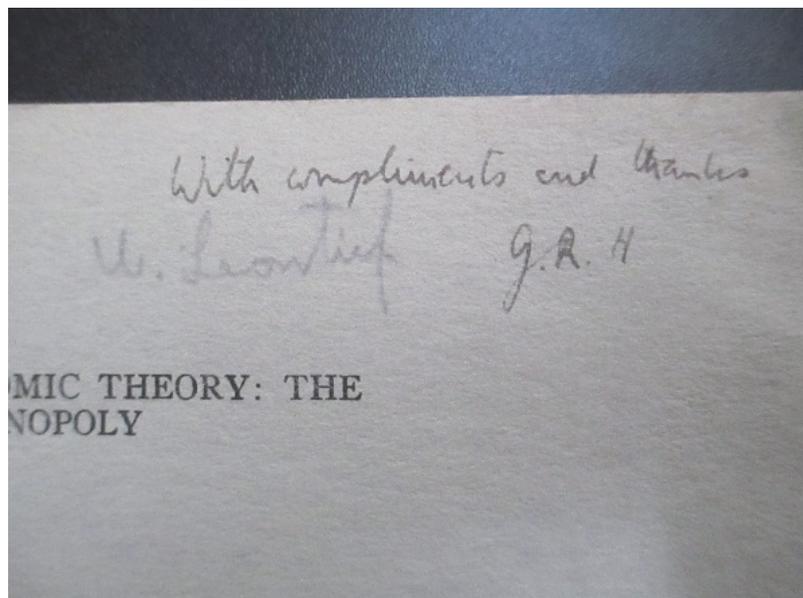
Jacques Attali, 1988,
Literally and Figuratively, A history of property



For clarity and truth
with affection bordering
slight on love!
from
John K. Galbraith - 1983

レオンチエフ

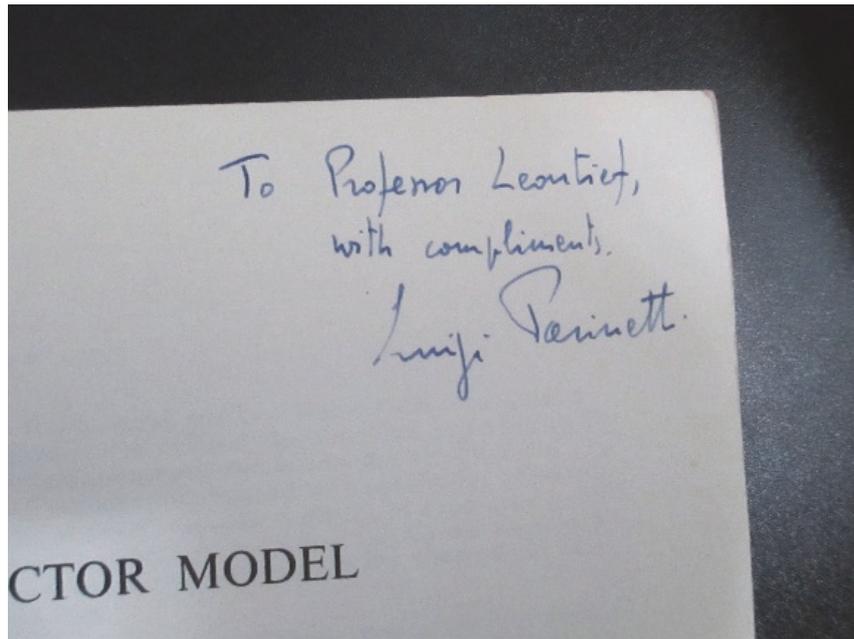
John K. Galbraith, 1983,
The Anatomy of Power



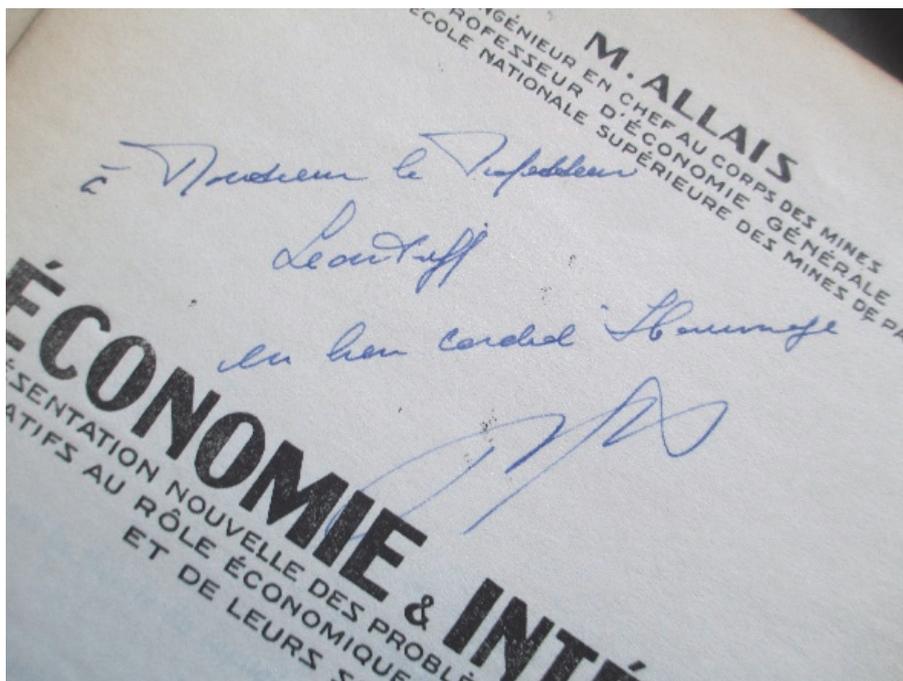
With compliments and thanks
W. Leontief G.R.H.

ECONOMIC THEORY: THE
MONOPOLY

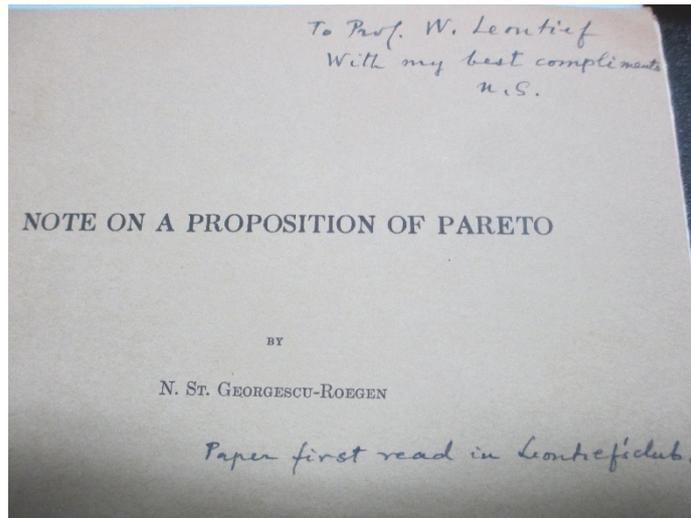
John R. Hicks, 1935,
Annual Survey of Economic Theory: The Theory of Monopoly



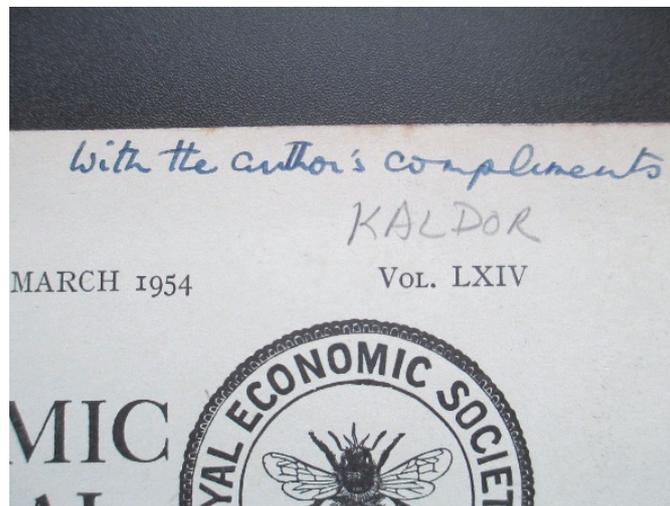
Luigi L. Pasinetti, 1963,
A Multi-Sector Model of Economic Growth



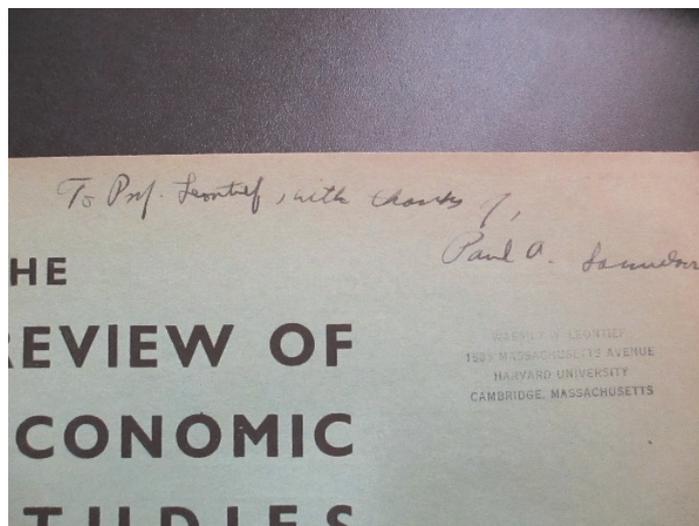
Maurice ALLAIS, 1947,
ECONOMY & INTEREST



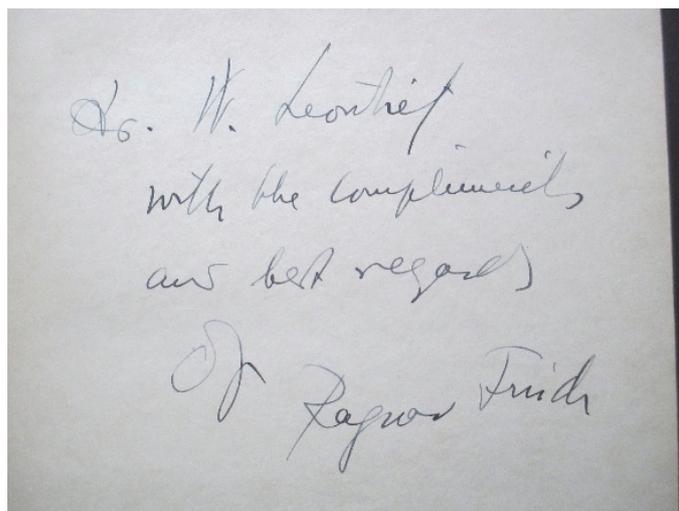
Nicholas Georgescu-Roegen, 1935, Note on a Proposition of Pareto



Nicholas Kaldor, 1954,
The Relation of Economic Growth and Cyclical Fluctuations

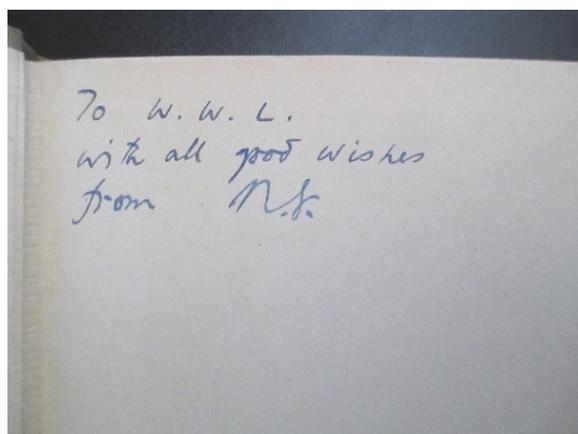


Paul A. Samuelson, 1937, A Note on Measurement of Utility

A photograph of a handwritten note on a piece of paper. The text is written in cursive and reads: "Dr. W. Leontief with the compliments and best regards Of Ragnar Frisch".

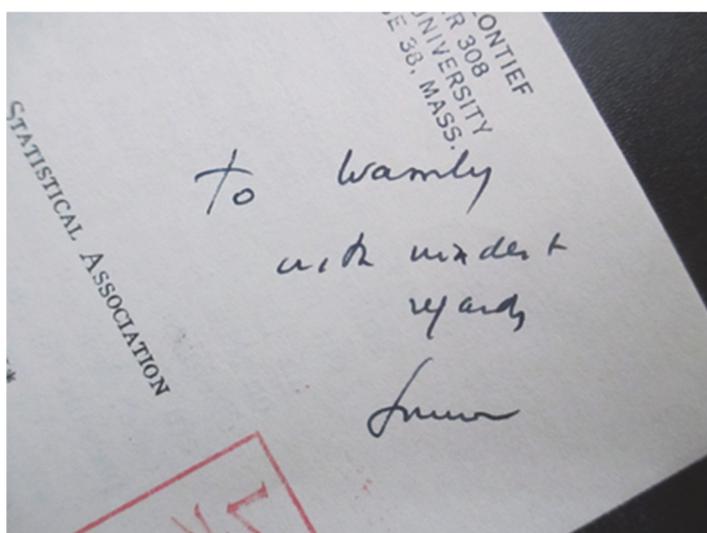
Dr. W. Leontief
with the compliments
and best regards
Of Ragnar Frisch

Ragnar Frisch, 1934,
Statistical Confluence Analysis by Means of Complete Regression Systems

A photograph of a handwritten note on a piece of paper. The text is written in cursive and reads: "To W. W. L. with all good wishes from R.S.". The initials "R.S." are written in a larger, bolder cursive script.

To W. W. L.
with all good wishes
from R.S.

Richard Stone, 1951,
The Role of Measurement in Economics

A photograph of a handwritten note on a piece of paper. The text is written in cursive and reads: "to Wamly with warmest regards Simon". The note is placed on a document with a stamp that reads "STATISTICAL ASSOCIATION" and "MONTIEN R 308 UNIVERSITY MASS.".

to Wamly
with warmest
regards
Simon

Simon Kuznets, 1950,
Conditions of Statistical Research

参考文献

- Aitken, P. (2006). "Tintner, Gerhard (1907–1983)." In R. B. Emmett (Ed.), *The Biographical Dictionary of American Economists*. London: Thoemmes Continuum.
- Arrow, K. J. (2008). "Hotelling, Harold (1895–1973)." In S. N. Durlauf & L. E. Blume (Eds.), *The New Palgrave Dictionary of Economics* (2nd ed.). Palgrave Macmillan.
- Ashbury, D. (2006). "Harris, Seymour Edwin (1897–1974)." In R. B. Emmett (Ed.), *The Biographical Dictionary of American Economists*. London: Thoemmes Continuum.
- Bjerkholt, O. (2016). "Wassily Leontief and the discovery of the input-output approach" (Memorandum No. 18/2016). Oslo: University of Oslo, Department of Economics.
- Emmett, R. B. (2006). "Schultz, Henry (1893–1938)." In R. B. Emmett (Ed.), *The Biographical Dictionary of American Economists*. London: Thoemmes Continuum.
- History of Economic Thought Website (n.d.) "Jacob Marschak."
<https://www.hetwebsite.net/het/profiles/marschak.htm> (アクセス日：2025年10月30日) .
- Hotelling, H. (1939). "The Work of Henry Schultz." *Econometrica*, 7, 97–103.
- INFORMS (n.d.) "Alan Sussman Manne." <https://www.informs.org/Explore/History-of-O.R.-Excellence/Biographical-Profiles/Manne-Alan-S> (アクセス日：2025年10月30日).
- Leontief, W. W. (1936). "Quantitative Input and Output Relations in the Economic Systems of the United States." *The Review of Economics and Statistics*, 18(3), 105–125.
- Leontief, W. W. (1941). *The Structure of American Economy, 1919–1929: An Empirical Application of Equilibrium Analysis*, Harvard University Press.
- Lissner, W. (1974). "In Memoriam: Harold Hotelling, 1895–1973." *American Journal of Economics and Sociology*, 33(2), 125–126.
- Mizuta, H. (2000). *Adam Smith's Library: A Catalogue*. Oxford: Clarendon Press.
- Murdock, J., Allen, C., & DeDeo, S. (2017). "Exploration and exploitation of Victorian science in Darwin's reading notebooks." *Cognition*, 159, 117–126.
- Neill, F. R. (2013). "John Kenneth Galbraith." *The Canadian Encyclopedia*,
<https://thecanadianencyclopedia.ca/en/article/john-kenneth-galbraith> (初出2007年・最終改訂2013年・アクセス日：2025年11月5日).
- Nobel Prize Outreach. "Paul A. Samuelson – Biographical." NobelPrize.org,
<https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/1970/samuelsen/biographical/> (アクセス日：2025年11月27日).
- Nobel Prize Outreach. "Richard Stone – Biographical." NobelPrize.org,
<https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/1984/stone/biographical/> (アクセス日：2025年11月27日).
- Nobel Prize Outreach. "Jan Tinbergen – Facts." NobelPrize.org,
<https://www.nobelprize.org/prizes/economic-sciences/1969/tinbergen/facts/> (アクセス日：2025年11月27日).

- Parker, R. (2003). "John Kenneth Galbraith." In R. B. Emmett (Ed.), *The Biographical Dictionary of American Economists*. London: Thoemmes Continuum.
- Samuelson, P. A. (1960). "Harold Hotelling as mathematical economist." *The American Statistician*, 14(3), 21–25.
- Samuelson, P. A. (2004). "A Portrait of the Master as a Young Man." In E. Dietzenbacher & M. L. Lahr (Eds.), *Wassily Leontief and Input-Output Economics* (pp. 3–8). Cambridge: Cambridge University Press.
- Suga, M. & Omata, J. (2025). "Organizing and Classifying Books of the Leontief Library.", *Leontief Library Report, No1*, Japan Statistics Research Institute, Hosei University, 1–26.
- 野原 慎司 (2016) 「『アダム・スミス文庫』の調査から見えてくるスミス像」セッション「東京大学『アダム・スミス文庫』の新カタログ作成—デジタル資源を活用しつつ—」, 第80回大会, 経済学史学会, 2016年5月, 東北大学.
- 水田 洋 (2000) 「アダム・スミスの蔵書」『日本學士院紀要』, 55 卷 1 号, 1–20 項.

レオンチェフ・ライブラリー・レポート No.2
2026年3月5日

発行所 法政大学 日本統計研究所
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
Tel 042-783-2325,6
Fax 042-783-2332
jsri@adm.hosei.ac.jp
発行人 菅 幹雄

LEONTIEF LIBRARY REPORT

No.2

March 2026

An Analysis of the Number of Materials by Author
in the Leontief Library

CONTENTS

An Analysis of the Number of Materials by Author in the Leontief Library

Jun OMATA

Edited by

JAPAN STATISTICS RESEARCH INSTITUTE
HOSEI UNIVERSITY
TOKYO, JAPAN